

1 プログラム名 「上手な断り方」

2 指導のねらい

人の要求に応じてばかりいると、従属的な関係しか形成できない。ここでは、友だちの要求を受け入れることと受け入れないことのどちらが自分の本心に近いか考えたうえで、相手の気持ちにも配慮しながら自らの気持ちをはっきりと示し、上手に断ることができるようにさせたい。

3 獲得目標とするスキル

- ①断り方の種類を知る。 ②断りの言葉の内容を知る。
③相手に自分の気持ちを伝える断り方ができる。

4 展開

場面	教師の発問 (○)・指示 (●)	児童の反応・行動	留意点	時間
インストラクション	○みなさんが誰かに頼み事をされたとき、全て引き受けなければいけないと思いますか？ ●そうですね。頼み事をされたときは、よく考えて断ることも必要ですね。 ○それでは、友だちから「帰ったら遊ぼうよ。」と言われたら何と答えますか。 ・お母さんと出かける用事があったときはどうしますか？	・嫌な頼み事もある。 ・都合の悪いときもある。 ・「遊ぼう」と言う。 ・迷う。 ・理由を言って、断ると思う。	工夫のポイント 具体的なケースを想定して発問してもよい。しっかりと意識付けが図れる内容を工夫する。 ・人に頼まれた時、「引き受けるか」「断るか」を決めることが必要になることを意識付ける。	5
モデリング	●今から2つの断り方をやってみます。 ・攻撃的、非主張的な断り方を演じて見せ、相手役に感想を聞く。 ●それでは、自分の考えをはっきり伝え、断っても友だちでいられるような断り方を考えてワークシートに記入してください。 ●みなさんの考えを発表してください。 ●上手な断り方のポイントをまとめてみます。 ・「ごめん」と謝る。 ・断る理由を言う。 ・はっきりと断る。 ・代わりの意見を言う。	・最初の断り方は、はっきりしない。はっきり断れずに引き込まれてしまう可能性がある。 ・次の断り方は二度と頼みたくなくなる。友だちでなくなることがある。 ・ワークシートに記入する。 ・今は、できない。 ・ごめんね。できないよ。 ・みんなで上手な断り方のポイントを確認する。	・相手役は事前に代表の児童を選び、リハーサルを実施しておく。 ・数名を指名し、さらに全員の意見の確認を取り、傾向を把握する。 ・意見を4つの観点にまとめて、板書し、出なかった観点は教師が提示する。	10
リハーサル	●4つのポイントを断りカードの左側に項目として入れましょう。その項目ごとに断るとき言葉を自分で書いてみましょう。 ●自分でつくった台本を声を出して読んでみましょう。 ●3人グループになってください。断る人、断られる人、観察者になって実際に断る練習してみましょう。観察者は、上手に断れているところを見つけてあげてください。 ●いくつかの班にやってもらいます。	・ワークシートに記入する。 ・声に出して読み、断る練習をする。 ・3人組をつくり、最初の役割を決める。 ・身に付けたいスキル確認し、グループで実際にトレーニングを行う。 ・振り返りを行い、スキルが獲得できたかどうかをグループ内で確認する。	・セリフの確認をし、時間のかかっている児童にはアドバイスする。 ・グループの様子を確認しながら必要に応じてアドバイスを与え、スキルの獲得を支援する。 ・いくつかの班に全体の前で行わせ、相手のことも考えながら、はっきり自分の意志を伝える大切さを確認する。	25
フィードバック	○どうでしたか。みなさんの感想を教えてください。 ●今日は、「上手な断り方」について学習しました。人からお願いされても、全部やってあげられるとは限りません。相手と自分の気持ちや事情を考えて、断るのか、引き受けるのかを決定します。断るときは、はっきり断れる人になりましょう。	・感想を発表する。	・相手が不当な要求をした場合「はっきりと断ること」が大切であることを意識付ける。 *具体例な事例として、いじめや暴力、薬物の誘いがけなどが考えられる。	5

5 その他

リハーサルのテーマは学級の実態に応じて、変えることも可能である。例えば、「宿題見せて」「危険な遊びを一緒にしよう」「あの子に意地悪しよう」など考えられるが、実際の場面だったり、個人攻撃にならないよう配慮する必要がある。

板書例

「謝る」「理由を言う」「はっきりと断る」「代わりの意見を言う」

年 組 氏名

場面

1 場面

昨日、前からほしかったゲームソフトをためてきたおこづかいで買った。買ったばかりでまだ一度も使っていないので、学校から帰ったら、早くゲームをやりたいと思っているそんなとき、友だちのB君から、「そのゲームソフトをかしてよ。」といわれた。

2 役割設定

- ・子どもA 家に帰ったら早くゲームをやりたいと思っているのに、ゲームソフトをかしてほしいとたのまれる子ども
- ・子どもB ゲームソフトをかしてほしいとたのむ子ども

3 役割演技の流れ

- ・子どもAは下の2つのパターンで子どもBのたのみごとに対応する。

《パターン1》『非主張的』：はっきり断らずに、相手にそれを察してもらう。

子どもB 「Aさん、そのゲームソフトをかしてよ。」

子どもA 「ええと…、今日は、ちょっと…」

子どもB 「ぼくも、そのゲームやってみたかったんだよ。」

子どもA 「でも…、ぼくも…」

子どもB 「ねえ、いいだろう。明日には返すからさあ。」

子どもA 「ううん…、あのお…」

子どもB 「じゃ、学校から帰ったら、すぐかりにいくね。」

*この後はつづけられるかぎり会話をつづける。

《パターン2》『攻撃的』：おこりながら断ったり、乱暴にいたりする。

子どもB 「Aさん、そのゲームソフトをかしてよ。」

子どもA 「いやだよ。今日、学校から帰ったら、ぼくがやるんだから。」

子どもB 「ぼくも、そのゲームやってみたかったんだよ。」

子どもA 「ぼくだって昨日から、楽しみにしてたんだ。やりたかったら、自分でかえよ」

子どもB 「ねえ、いいだろう。明日には返すからさあ。」

子どもA 「しつこぞ。君には、ぜったいかさないからな！」

*この後はつづけられるかぎり会話をつづける。

- ◆ 自分でかって、まだ一度も使っていないゲームソフトを友だちから「かしてよ」といわれたら、あなたは自分の気持ちを、どうつたえますか。これからも友だちでいられるような断り方で断ってみましょう。

★ 上手な断り方のポイントは

『主 張 的』～はっきり断るけれども、自分も相手も傷つけないような断り方をする。

あやまる = 「ごめんね。かしてあげたいんだけど…」
「わるいんだけど…」

理 由 = 「まだ一度も使ってないから…」「ぼくも今日どうしてもやってみたくて…」
断 る = 「かしてあげられない。」「かしたくないんだ。」

代わりの案 = 「今日はだめだけど、明日ならかしてあげるよ。」
「かしてはあげられないけど、ぼくの家でいっしょにやらない？」

- ◆ ^{ことわ}断るとき^{こうもく}のセリフを考えてみましょう。(項目は自分で書きましょう。)

・友だちに「学校から帰ったら、いっしょに遊ぼう。」とさそわれた。
でも、今日は習^{なら}い事のある日で、いっしょに遊ぶ時間はない。
どうやって断^{ことわ}ればよいのだろうか。

項 目	セ リ フ

*項目の例： ^{こうもく}あやまる ^{れい}理由 ^{ことわ}断る ^か代わりの案 ^{あん}など

- ◆ 今日の学習^{かんそう}の感想を書きましょう。

